

もの作り（アクティビティ）

【目的】

もの作りを通じて、認知機能、遂行機能など脳の賦活、また達成感や対人交流など活動に対する意欲向上など心理精神的側面の活性を図ることを目的とする。

【工程分析と意味づけ】

準備：材料と道具を選定する。

- ・作業と道具の関連性の認識，材料・道具の整理場所の把握

作業工程の説明：作業工程をデモンストレーションを交え説明する。

- ・作業手順の記憶と実際にその時点で行える実行機能の活性を図る

デザインの思案：好みのデザインを考えてもらい、必要に応じて提案する。

- ・創造力やイメージ力を発揮することで思考力の向上

作業の実施：各工程の作業手順に従い、道具などを使用する。

- ・各工程の作業手順を記憶し、その作業に必要な材料と道具の使用方法など手続き記憶の活性

作業の完成：自分のイメージしたものに近似していたかを確認する。

- ・達成感と共に次への作業意欲を喚起

後片づけ：作業で使用した道具，材料の整理

- ・作業終了の習慣的記憶の活性
- ・作業実施におけるマナー，他者との作業協力など社会的活動の喚起

【作業時の介入について】

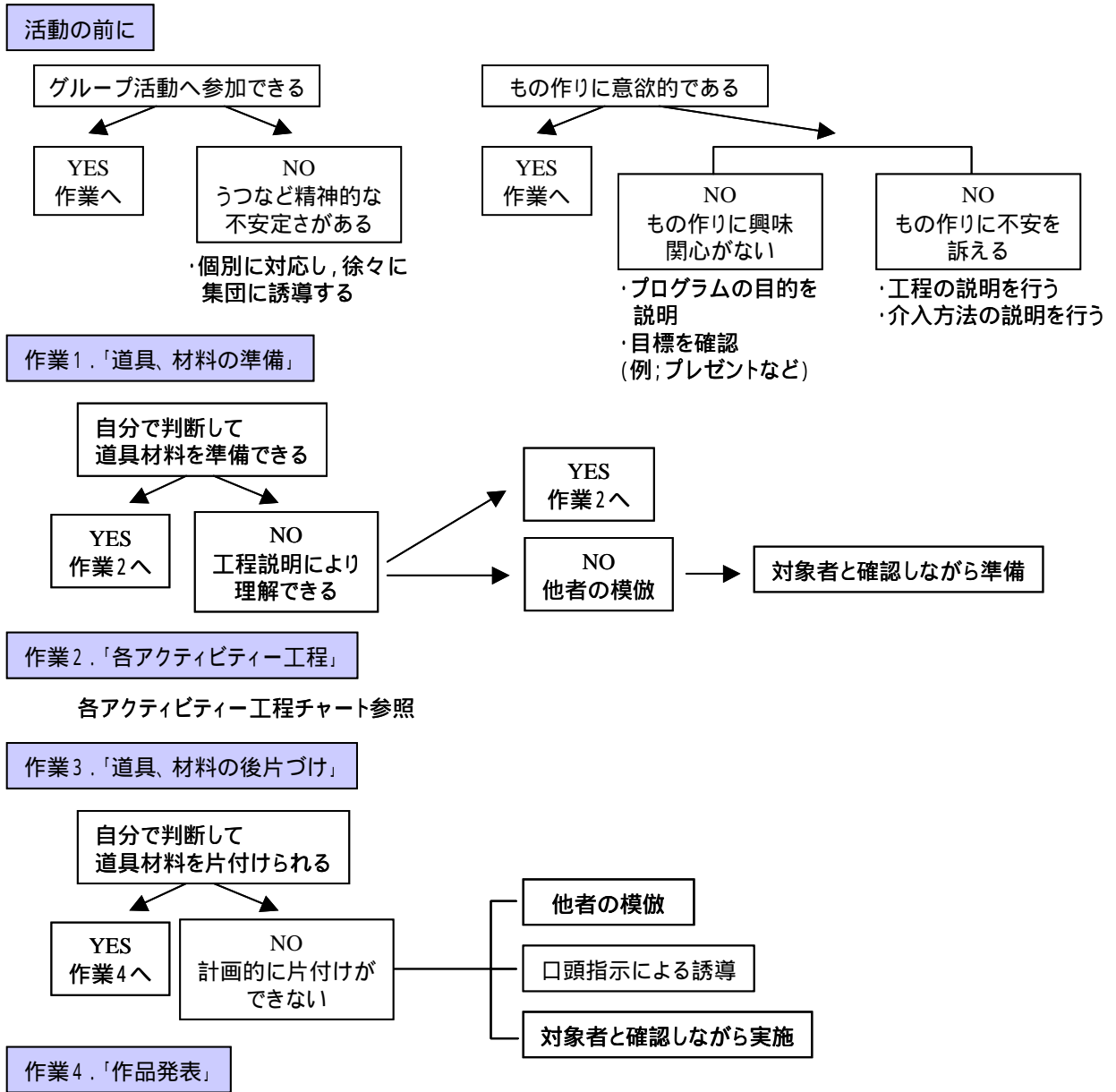
もの作りは、活動に参加することによって楽しさや達成感など心理精神的側面から脳（こころ）の活性を図る目的があります。しかしながら、作業活動を行うにあたり、その工程毎に必要とされる（身体的・認知的）機能や能力が異なるため、対象者が持ち得る能力を十分発揮できるような配慮や介入を適切に行う必要があります。

【もの作りチャートについて】

もの作りチャートは、対象者に関わる際、対象者が最大限の能力を発揮でき、作業を行う中で楽しく認知症の予防ができるよう、基本的な評価視点と指導方法を記したものです。

まず、「もの作りの全体的流れチャート」は、作業実施の前後の視点であり、どのような作業においても共通するものです。「活動の前に」と作業1～4から構成されていますが、作業2「各アクティビティ工程」は、資料の各作業のチャートに詳しく説明していますので参照してください。

【もの作りの全体的流れチャート】



「テーマと簡単な感想とともに発表しよう」
 ・自分で発表できますか？
 ・感想はポジティブ？ ネガティブ？

1. タイルモザイク

【目的】

身体的側面:「タイルニッパーを握ってタイルをカットする」という動作によって、手指の屈曲力を高めることができる。また、タイルの形や大きさの調整によって様々な形のパーツを作る動作や、パーツを並べ、思い思いのデザインに仕上げる工程において、目と手の協調性が要求され、手指の感覚や運動能力を高めることができる。

認知・心理的側面:デザインや色の決定、選択し、それを並べて作品を完成させることにより、企画力や構成能力、注意力、記憶力を活性化させることができる。また、単純な作業の繰り返しにより、作業に対する精神的耐久力・集中力の強化を図ることができる。さらに作品を完成させることで達成感などによる自己肯定、作品をプレゼントするなどの目標設定により社会的交流の喚起にもつながる。

【材料】

- ・木製枠
- ・タイル
- ・目地剤(石膏)

【用具】

- ・タイルを割る道具(ハンマー、タイルニッパー)
- ・手芸用ボンド・ピンセット
- ・パーツ入れ容器・鉛筆
- ・ボール、計量カップ(目地剤溶き)
- ・ゴムヘラ・ビニル手袋
- ・スポンジorタオル(目地剤拭き)



【工程】

1. タイルを砕く

飛び散り防止のため、タイルをタオルなどに包み金槌でたたいて砕く。タイルニッパーを使用する場合は、ビニル袋の中で行うとよい。



2. タイルを色分け

砕いたタイルは色別に分けておく。



3. 枠材にデザインを描く



4. 枠材にタイルを貼り付ける

タイルの裏側にボンドを付け、枠材に貼り付ける。細かいところはピンセットを使う。



5. 目地剤を溶く

目地剤2に対して水1の割合で混ぜ合わせる。水をゆっくり入れ硬さを調節する。ゴムべらですくい落ちそうで落ちない硬さが目安です。

※目地剤はスタッフが準備する



6. 目地剤を詰める

ゴムべらなどを使って、タイルとタイルの間に目地剤を埋め込みます。ボンドが乾かないうちに行くとタイルがずれたり、はずれたりします。また、細かいパーツがある部分は、より丁寧にゆっくり埋め込みます。



7. 余分な目地剤を拭き取る

水で濡らしたスポンジやタオルを使って、余分な目地剤を拭き取ります。目地剤を押し込むように拭き取るのがコツです。目地剤は乾きやすいので固まる前にタイル表面がきれいに見えるまで拭き取ります。



8. 仕上げ

20～30分で目地剤が半乾きになるので、木枠やタイルなどに付いている余分な目地剤を濡れたタオルやウェットティッシュなどで丁寧に拭き取り、磨き上げます。目地剤が完全に固まれば完成。

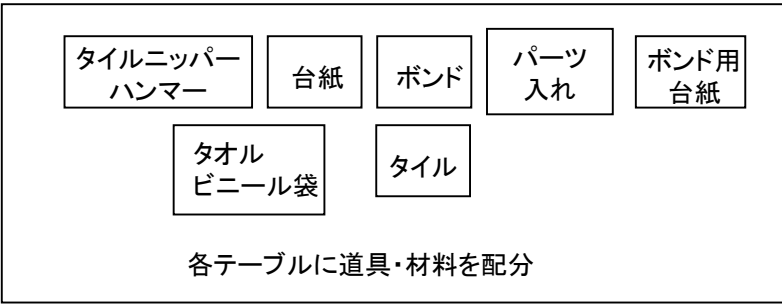


【作品例】



タイルモザイク介入チャート

作業2「各アクティビティー工程」



手順1「デザインを決定する」

自分でデザイン(テーマ・構図・配色)を決定できる

YES
手順2へ

NO
テーマが決まらない

作品例を提示
「花を作る? 模様を作る?」

NO
構図が決まらない

・パーツ図を提示
「どのパーツを組み合わせる?」
・図案を提示(白黒)

NO
配色が決まらない

「何色でつくる?」

図案に配色を記入

手順2「パーツを作る」

自分で必要なパーツを作ることができる

YES
手順3へ

NO
作ることができない

・道具の選択(ニッパーorハンマー)
・タイルを割る作業はスタッフがを行い必要なパーツを対象者が選ぶ

NO
必要な数がわからない

・構図をもとに数の確認
・製作しながら確認

NO
大きさ, 形の調整が困難

・見本を提示
・できるパーツを自分で
・細かいパーツはスタッフが作成(形は自分で整える)

手順3「組み立てる」

自分でパーツを組み立てることができる

YES

NO
台紙上の配置が決まらない

「一度並べてみましょう」

NO
構成が困難

・図案を見ながら構成
・台紙に配置を図示して構成
・指示しながら構成

NO
細かい作業が困難

・ピンセットなど道具の工夫

2. ペーパークイリング

【目的】

身体的側面:

クイリングバーを用いて、カラーペーパーを丸めるという動作によって、手指の巧緻性を高めることができる。また、丸める強度、方向の調整によって様々な形のパーツを作る動作や、パーツを並べ、思い思いのデザインに仕上げる工程において、目と手の協調性が要求され、手指の感覚や運動能力を高めることができる。

認知・心理的側面:

デザインや色の決定、選択し、それを並べて作品を完成させることにより、企画力や構成能力、注意力、記憶力を活性化させることができる。また、単純な作業の繰り返しにより、作業に対する精神的耐久力・集中力の強化を図ることができる。さらに作品を完成させることで達成感などによる自己肯定、作品をプレゼントするなどの目標設定により社会的交流の喚起にもつながる。

【材料】

- ・クイリングペーパー(3mm巾×30cm, 6mm巾×30cmのカラーペーパー)
- ・台紙(メッセージカード, ミニ額, 色紙など)
- ・デザインを書く紙

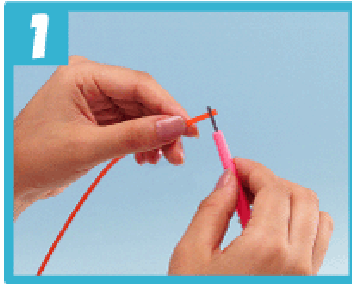
【用具】

- ・クイリングバー(竹籤, 爪楊枝などで代用可)
- ・手芸用ボンド・ピンセット・パーツ入れ容器
- ・鉛筆・はさみ

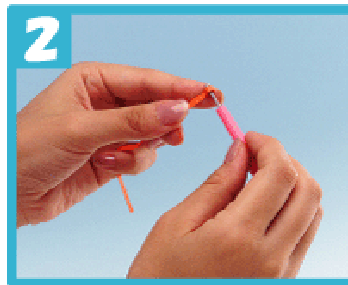
※材料・用具はセット販売有り



【工程】



紙の端をバーの溝に挟みます。



紙を人差し指で押さえながら、クルクルと巻きます。



巻き終わったら、しっかり巻き閉めて、クイリングバーを抜きます。



抜き取ったパーツはルーズサークル又は、タイトサークルに形を整え紙の端を接着剤で止めます。



パーツにボンドを付け、デザイン通りに台紙上に貼り付けます。

【图案集】



【作品例】



ペーパークイリング介入チャート

作業2「各アクティビティー工程」

クイリングバー 竹ひご	台紙	ボンド	パーツ 入れ	ボンド用 台紙
クイリング ペーパー	爪楊枝			

各テーブルに道具・材料を配分

手順1「デザインを決定する」

自分でデザイン(テーマ・構図・配色)を決定できる

YES
手順2へ

NO
テーマが決まらない

作品例を提示
「花を作る? 模様を作る?」

NO
構図が決まらない

・パーツ図を提示
「どのパーツを組み合わせる?」
・図案を提示(白黒)

NO
配色が決まらない

「何色でつくる?」

↓
図案に配色を記入

手順2「パーツを作る」

自分で必要なパーツを作ることができる

YES
手順3へ

NO
作り方がわからない

・説明書を提示
・手本を示す

NO
必要な数がわからない

・構図をもとに数の確認
・製作しながら確認

NO
大きさ, 形の調整が困難

・見本を提示
・できるパーツを自分で
・基本パーツをスタッフが作成
(形は自分で整える)

手順3「組み立てる」

自分でパーツを組み立てることができる

YES

NO
台紙上の配置が決まらない

「一度並べてみましょう」

NO
構成が困難

・図案を見ながら構成
・台紙に配置を図示して構成
・指示しながら構成